

# 2024年3月期 第2四半期 決算説明資料



フジ・メディア・ホールディングス

2023年11月2日

# 目次

1 2024年3月期  
第2四半期決算概要

2 2024年3月期  
通期業績予想とトピックス

3 株主への利益還元

4 サステナビリティの  
取り組み

5 参考資料



1

## 2024年3月期 第2四半期決算概要

2

## 2024年3月期 通期業績予想とトピックス

3

## 株主への利益還元

4

## サステナビリティの 取り組み

5

## 参考資料





# 連結決算



# 今期決算のポイント

業績

## ■連結業績：中期グループビジョン初年度上期決算は、前期比で増収営業増益、おおよそ計画通り

- ・前期比は、メディア・コンテンツ事業は増収減益、都市開発・観光事業は増収増益
- ・経常利益は、持分法投資利益の減少等で減益

ポイント

## ■メディア・コンテンツ事業：増収減益

### □フジテレビ：増収営業損失

**放送・メディア**：減収粗利益減益、番組制作費はGP帯のコンテンツや大型単発等に戦略的に投下

- ・地上波：タイムは単発増収、レギュラー減収、スポットは地区投下および在庫の減少により減収
- ・配信広告：引き続き増収、ナショナルクライアントからの出稿、ドラマに加え、バラエティも好調

**コンテンツ・ビジネス**：大幅増収粗利益増益

- ・イベント：「アレグリア-新たなる光-」が盛況で大幅増収増益に寄与
- ・デジタル：FOD有料会員増加継続
- ・MD：「アレグリア」の物販や、配分金等が貢献
- ・アニメ開発：配分金収入が引き続き好調

### □グループ各社：

- ・ビーエスフジ：上期過去最高の放送収入等で増収、営業利益は上期で最高益
- ・ポニーキャニオン：イベント、配分金、配信堅調で増収、アニメ償却費や原価増等で減益
- ・フジパシフィックミュージック：著作権収入好調で増収増益
- ・クオラス：イベント等好調で増収増益
- ・DINOS：消費動向の変化の影響等で営業損失

## ■都市開発・観光事業：増収増益

- サンケイビル：減収増益 前年度の大型物件売却の反動減で減収、住宅、オフィス等の賃貸が好調で増益
- グランビスタホテル&リゾート：増収増益 ホテルが大幅回復、営業利益は連結後最高益

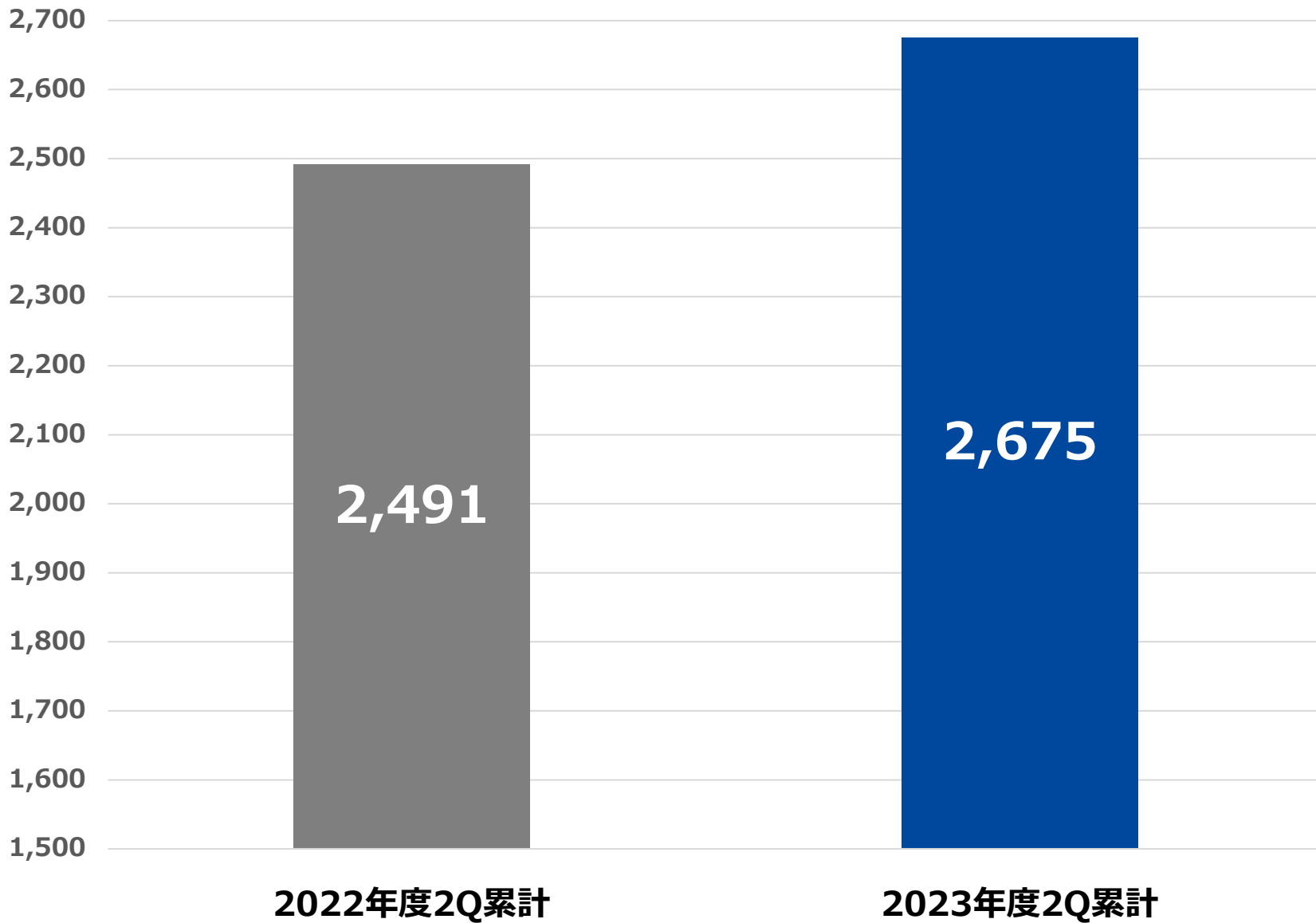
通期

## ■通期の連結業績予想：変更無し

- ・メディア・コンテンツ事業と都市開発・観光事業の2本柱で、通期連結業績予想の達成を目指す

# 連結売上高

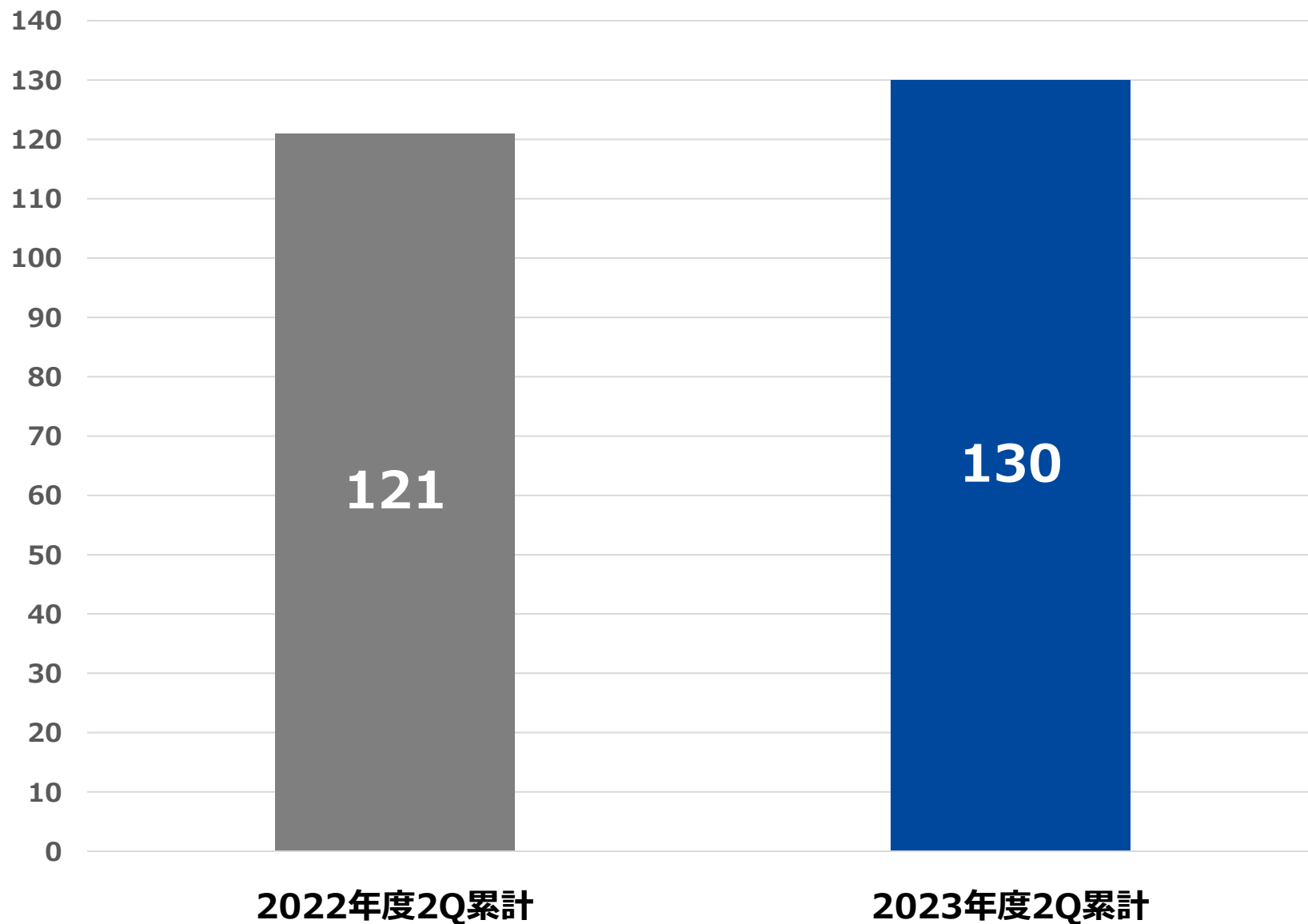
(単位：億円)



**7.4%**  
**増収**

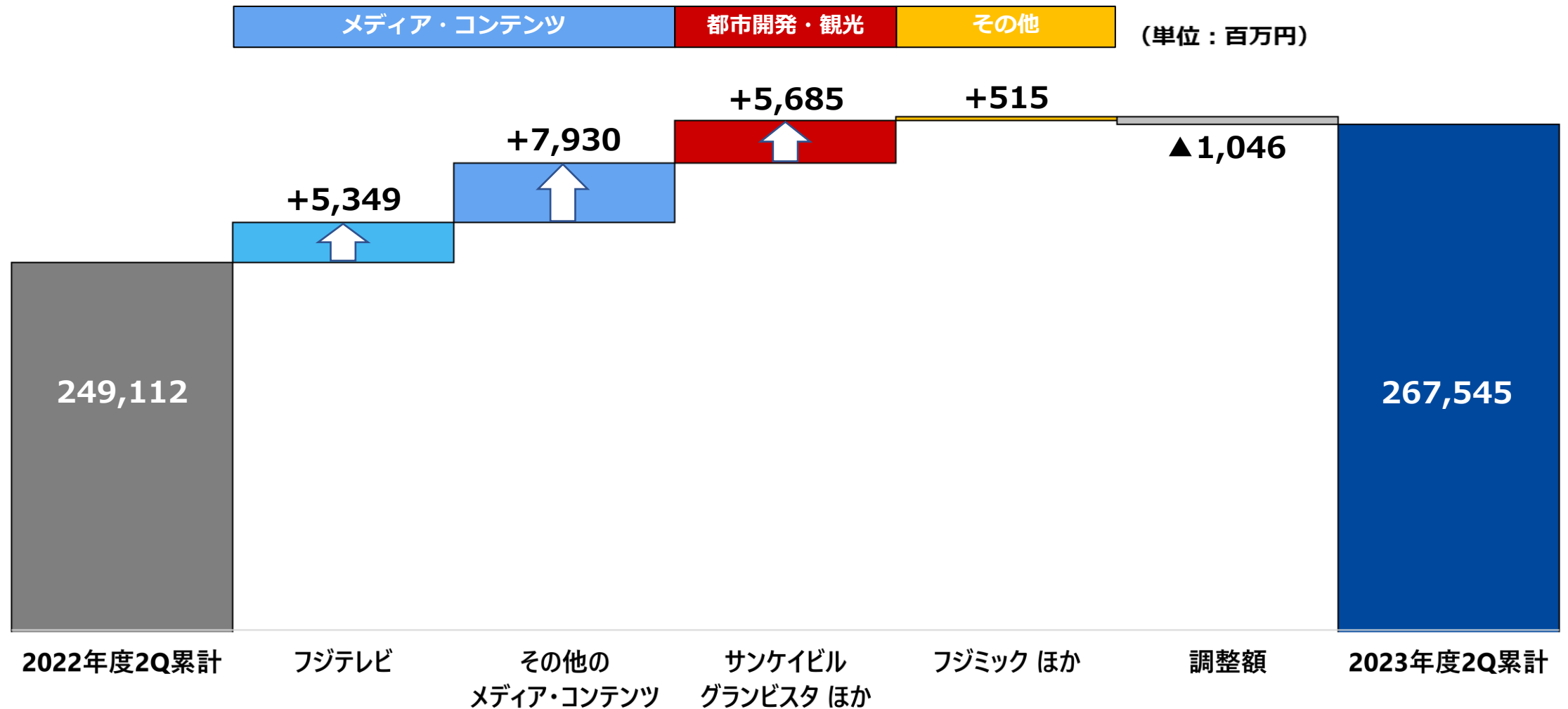
# 連結營業利益

(單位：億圓)



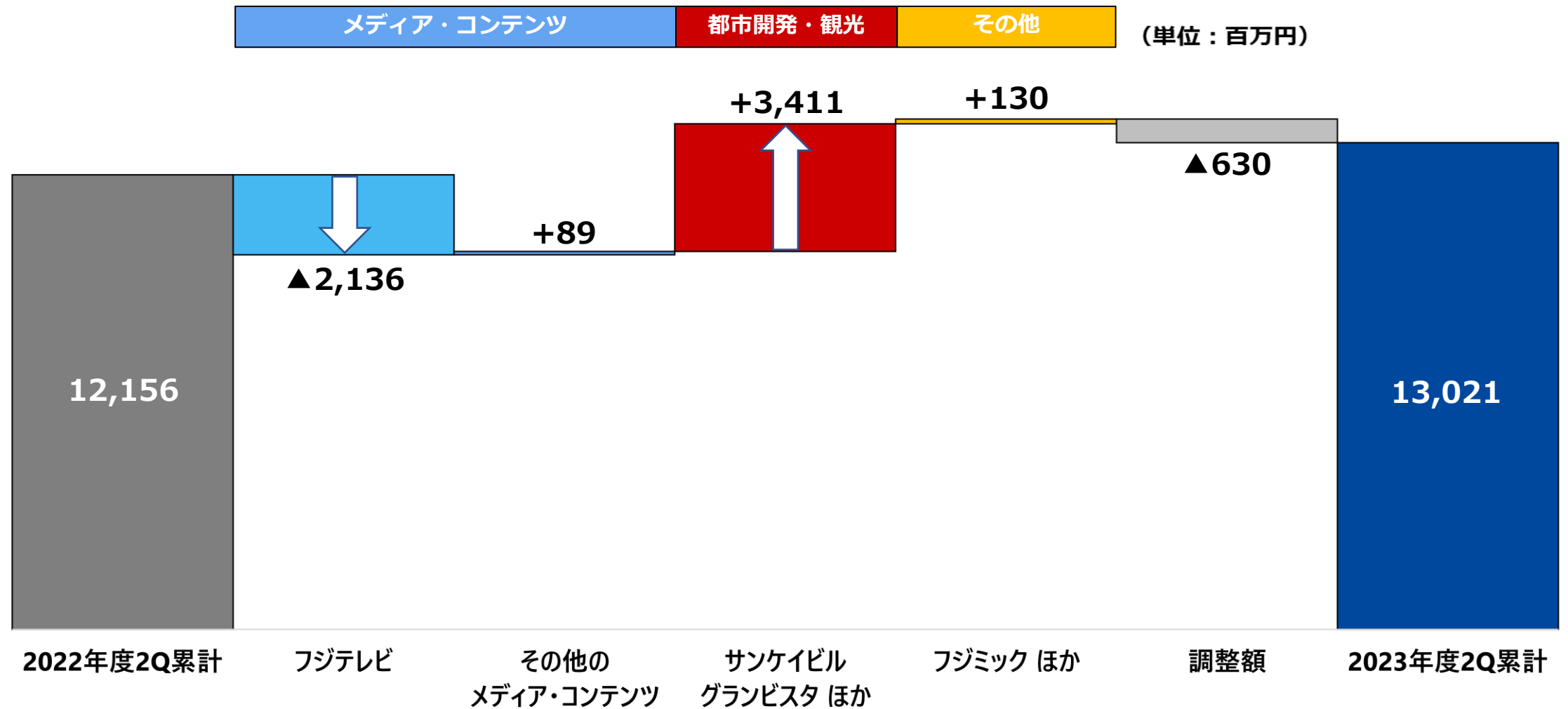
**7.1%**  
**增益**

# セグメント別売上高と増減要因



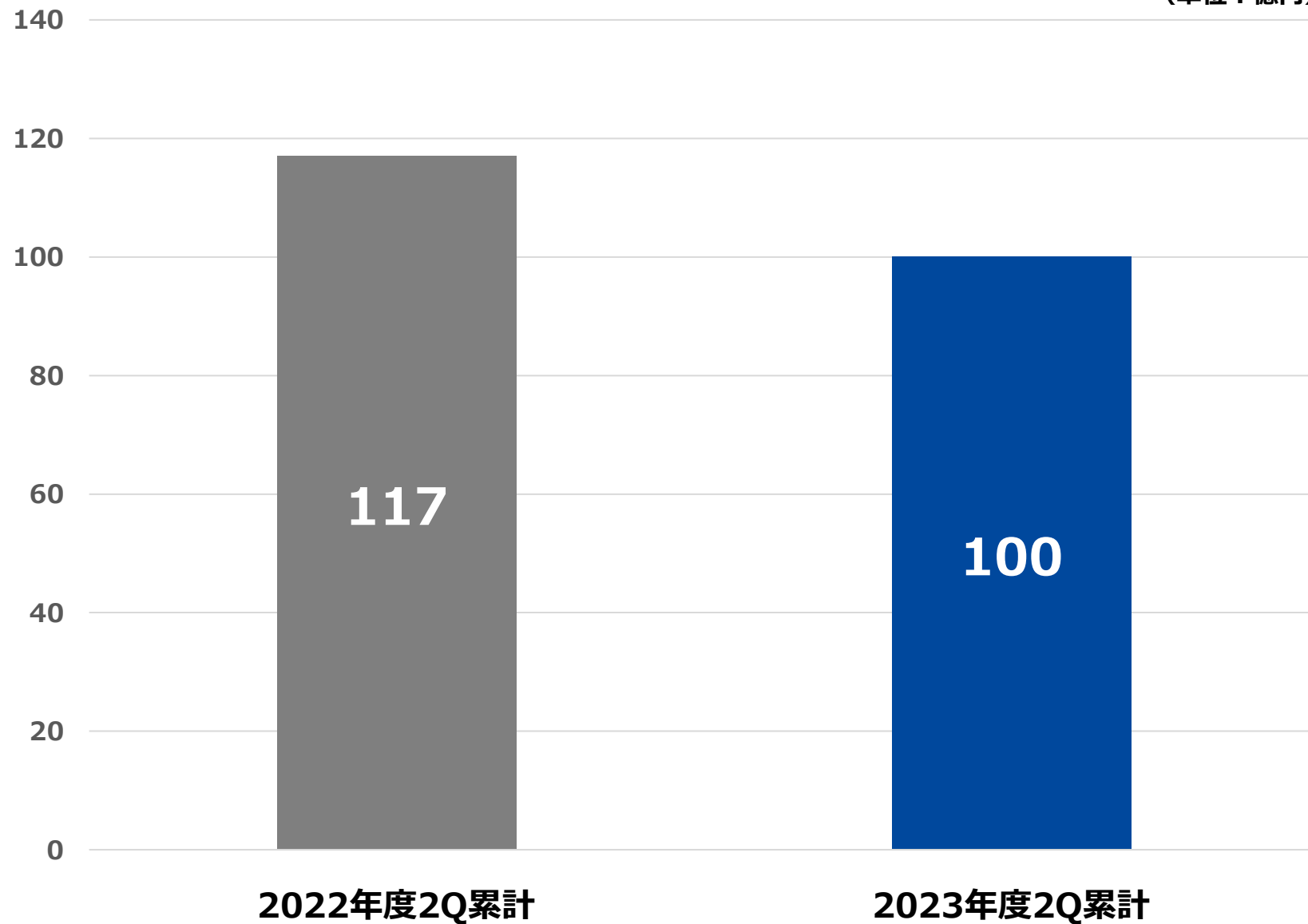


# セグメント別営業利益と増減要因



# 四半期純利益

(単位：億円)



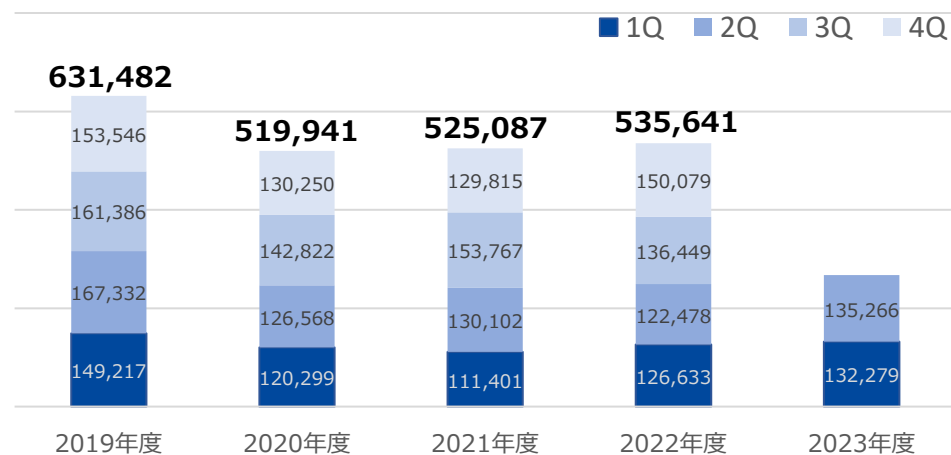
**14.3%**  
**減益**

# 連結決算概要

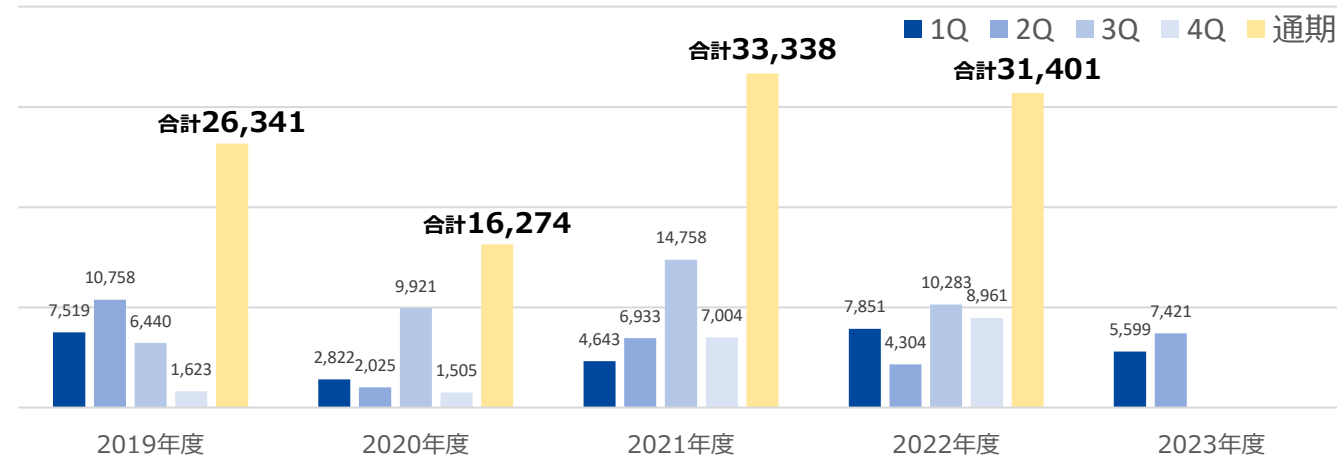
(単位：百万円)

	2022年度 2Q累計	2023年度 2Q累計	対前期増減		通期 業績予想 (5/11)	対通期予想 達成率	
売上高	249,112	267,545	18,433	7.4%	557,700	▲290,154	48.0%
営業利益	12,156	13,021	864	7.1%	32,000	▲18,978	40.7%
経常利益	16,153	15,199	▲954	▲5.9%	39,300	▲24,100	38.7%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	11,735	10,053	▲1,682	▲14.3%	26,000	▲15,946	38.7%

売上高



営業利益



# セグメント別の売上高及び営業利益

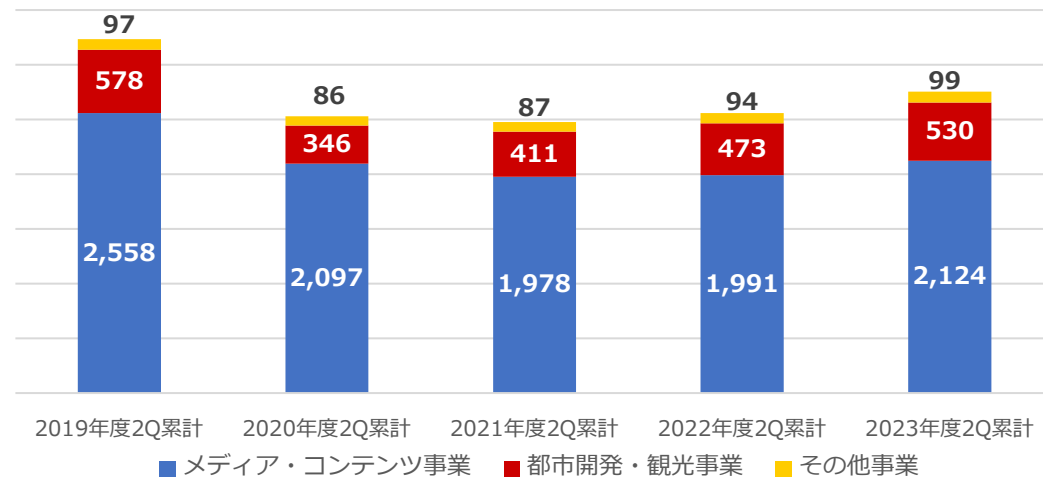
(単位：百万円)

	事業セグメント			計	調整額	連結損益 計算上 書額	
	メディア・ コンテンツ 事業	都市開 発 観光 事業	その 他 業				
売上高	2023年度2Q累計	212,475	53,060	9,924	275,460	▲7,915	267,545
	2022年度2Q累計	199,196	47,375	9,409	255,981	▲6,868	249,112
	増減	13,279	5,685	515	19,479	▲1,046	18,433
	増減 (%)	6.7%	12.0%	5.5%	7.6%	—	7.4%
営業利益	2023年度2Q累計	4,156	9,749	490	14,396	▲1,375	13,021
	2022年度2Q累計	6,203	6,337	359	12,900	▲744	12,156
	増減	▲2,046	3,411	130	1,495	▲630	864
	増減 (%)	▲33.0%	53.8%	36.2%	11.6%	—	7.1%
営業 利益率	2023年度2Q累計	2.0%	18.4%	4.9%	5.2%	—	4.9%
	2022年度2Q累計	3.1%	13.4%	3.8%	5.0%	—	4.9%

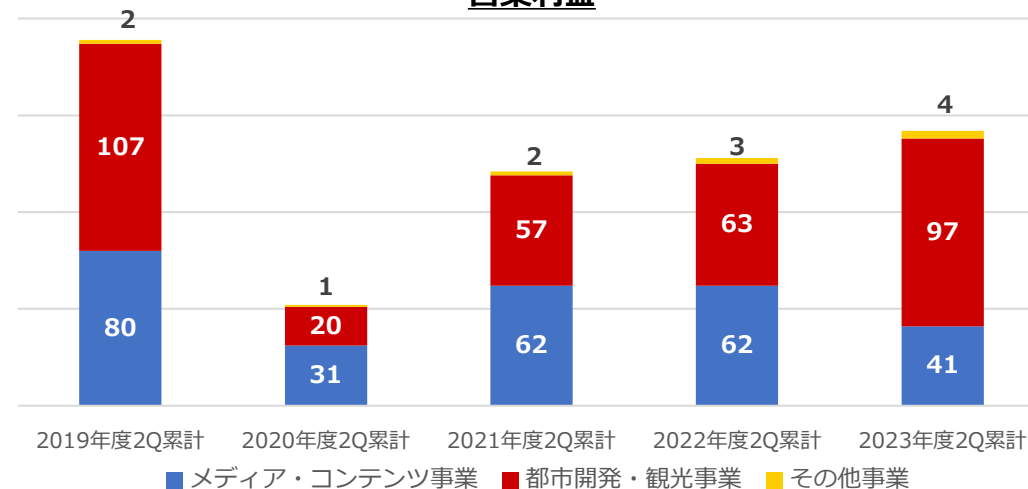
# セグメント別売上高・営業利益推移

## ■セグメント別業績推移 (単位：億円)

売上高

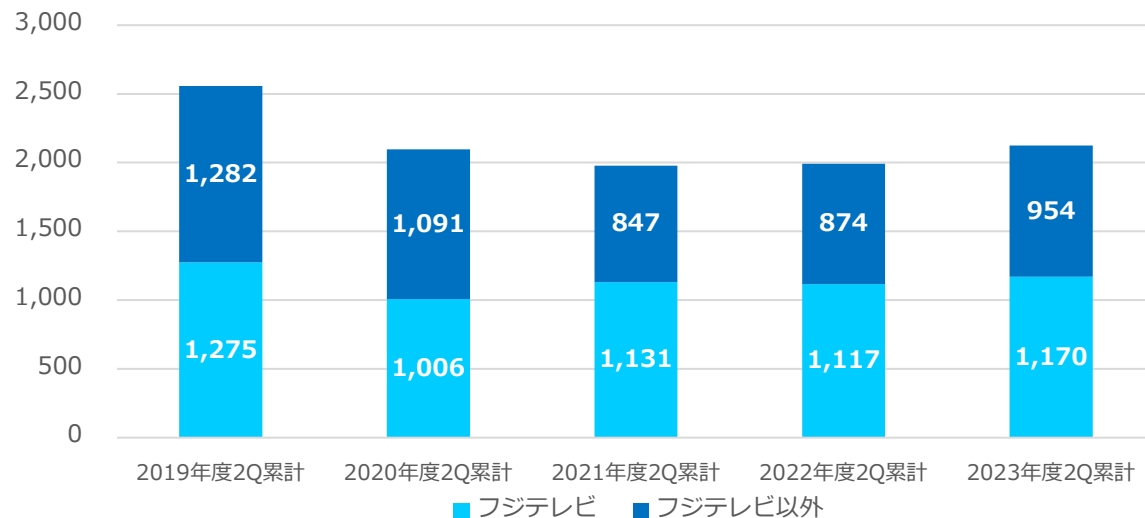


営業利益

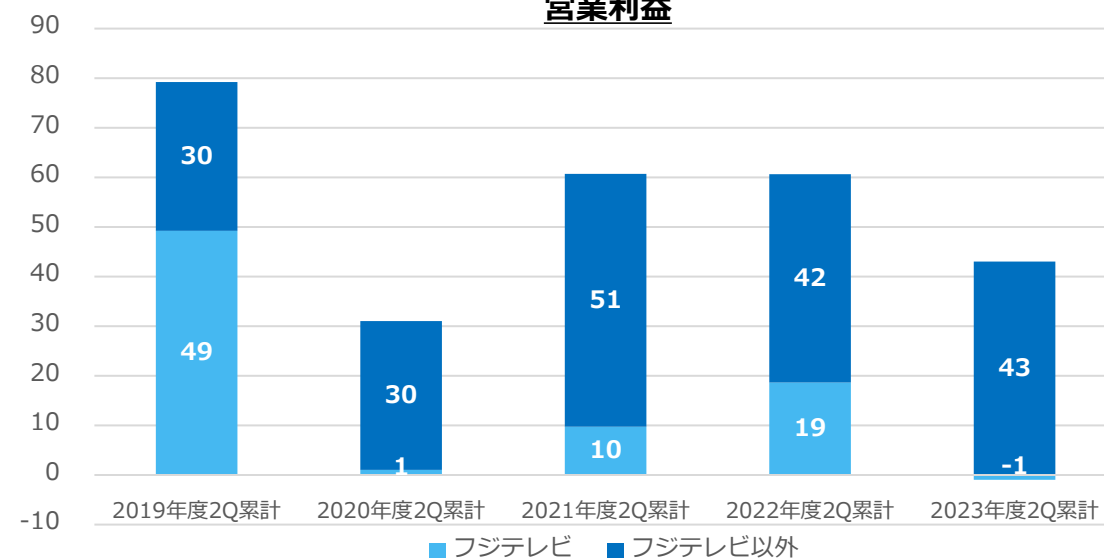


## ■メディア・コンテンツ事業の内訳の推移 (単位：億円)

売上高



営業利益



※フジテレビ以外はセグメント売上とフジテレビ売上の差額。セグメント内調整を含む。



# 営業外収益・費用の主な内容

持分法投資利益の減少は、関連会社における構造改革による費用計上のため

(単位：百万円)

	2022年度 2Q累計	2023年度 2Q累計	対前期増減	
営業外収益				
受取配当金	2,143	2,296	152	7.1%
持分法による 投資利益	1,558	—	▲1,558	▲100.0%
その他	1,421	1,300	▲121	▲8.6%
<b>営業外収益合計</b>	<b>5,124</b>	<b>3,596</b>	<b>▲1,528</b>	<b>▲29.8%</b>
営業外費用				
支払利息	722	826	104	14.5%
持分法による 投資損	—	61	61	—
投資事業組合運用損	182	96	▲86	▲47.4%
その他	222	434	212	95.6%
<b>営業外費用合計</b>	<b>1,127</b>	<b>1,418</b>	<b>291</b>	<b>25.9%</b>

# 特別利益・損失の主な内容

(単位：百万円)

	2022年度 2Q累計	2023年度 2Q累計	対前期増減	
特 別 利 益				
投資有価証券売却益	98	554	455	460.9%
そ の 他	24	10	▲14	▲57.3%
<b>特 別 利 益 合 計</b>	123	<b>565</b>	441	358.2%
特 別 損 失				
固定資産除却損	76	104	27	36.4%
減 損 損 失	28	261	232	816.6%
そ の 他	268	31	▲237	▲88.4%
<b>特 別 損 失 合 計</b>	374	<b>397</b>	23	6.2%

# セグメント情報（連結子会社）

セグメント	会社名	会社数
メディア・コンテンツ	フジテレビジョン、ビーエスフジ、ニッポン放送、仙台放送、 フジクリエイティブコーポレーション、共同テレビジョン、ポニーキャニオン、 フジパシフィックミュージック、DINOS CORPORATION、クオラス、扶桑社、NEXTEP、 フジアール、フジ・メディア・テクノロジー、共同エディット、バスク、バンエイト、 ベイシス、フジ・ミュージックパートナーズ、 シンコーミュージック・パブリッシャーズ、グレイプ、イミ二免疫薬粧、 FUJI MUSIC GROUP, INC.、ARC/CONRAD MUSIC LLC	24社
都市開発・観光	サンケイビル、グランビスタホテル&リゾート、 サンケイビルマネジメント、サンケイビルテクノ、サンケイビルウェルケア、 サンケイ会館、サンケイビル・アセットマネジメント、 SKB USA LLC、SKB PORTLAND LLC	9社
その他	フジミック、ニッポン放送プロジェクト、フジキャリアデザイン、 FUJISANKEI COMMUNICATIONS INTERNATIONAL, INC.	4社
合計		37社

# メディア・ コンテンツ 事業





# メディア・コンテンツ事業の決算のポイント

## ビーエスフジ

増収増益

上期過去最高の放送収入等で増収  
営業利益は上期で最高益



タイム収入が好調  
通販関連の旺盛な出稿や  
それに対応する枠の設定  
需要に応じた単価向上が奏功  
効率的な番組費の運用も寄与

## ニッポン放送

増収増益

**オールナイトニッポン** 番組関連イベントや  
グッズ販売好調

「オールナイトニッポン」関連のグッズ等  
番組と連動した興行収入好調  
配信PF向けのコンテンツ販売も引き続き堅調

## フジクリエイティブコーポレーション

増収増益



制作受注の増加と  
国内番販好調で増収

単発バラエティやドラマ制作の受注増  
イベントも回復  
国内番販は平日午後帯向けの販売好調

## ポニーキャニオン

増収減益



ノンパッケージ好調  
イベント、グッズ、配分金、  
配信、番販等が好調で増収  
利益は見込みは上回ったが  
償却費負担、グッズ制作費  
や運搬費等の原価高騰の  
影響もあり減益

「ケンガンアシュラ」Season 2  
© 2023 サンドロピッチ・ヤバ子, だろめおん, 小学館/拳願会 2

## DINOS CORPORATION

減収営業損失



ファッションの  
基幹ブランド  
「DAMA collection」  
2023年夏号カタログ

消費動向の変化にあわせ  
商材と販路の見直しへ  
ファッションや食品は好調  
節約志向や消費行動の変化により、  
美容健康系商品等のテレビ通販や  
家具収納のカタログ通販の減が続く

## クオラス

増収増益

エンタメ等多様な業種から発注堅調  
OOH（屋外広告）の広告売上が前期超え  
クリエイティブやイベント関連等も  
引き続き好調



# メディア・コンテンツ事業 会社別概要

(単位：百万円)

	売上高			営業利益			営業利益率		
	2022年度 2Q累計	2023年度 2Q累計	前期比	2022年度 2Q累計	2023年度 2Q累計	前期比	2022年度 2Q累計	2023年度 2Q累計	増減
フジテレビジョン	111,702	<b>117,051</b>	5,349 (4.8%)	1,962	<b>▲173</b>	▲2,136 (-)	1.8%	<b>▲0.1%</b>	▲1.9%
ビーエスフジ	7,716	<b>8,121</b>	405 (5.3%)	1,200	<b>1,647</b>	446 (37.2%)	15.6%	20.3%	4.7%
ニッポン放送	6,373	<b>7,408</b>	1,035 (16.2%)	328	<b>377</b>	49 (15.1%)	5.2%	5.1%	▲0.1%
フジクリエイティブ コーポレーション	6,416	<b>7,617</b>	1,201 (18.7%)	408	<b>462</b>	53 (13.2%)	6.4%	6.1%	▲0.3%
共同テレビジョン	6,151	<b>7,128</b>	976 (15.9%)	▲45	<b>315</b>	360 (-)	▲0.7%	4.4%	5.2%

# メディア・コンテンツ事業 会社別概要

(単位：百万円)

	売上高			営業利益			営業利益率		
	2022年度 2Q累計	2023年度 2Q累計	前期比	2022年度 2Q累計	2023年度 2Q累計	前期比	2022年度 2Q累計	2023年度 2Q累計	増減
ポニーキャニオン	16,704	<b>18,961</b>	2,256 (13.5%)	434	<b>268</b>	▲165 (▲38.2%)	2.6%	1.4%	▲1.2%
D I N O S CORPORATION	29,155	<b>24,909</b>	▲4,245 (▲14.6%)	▲148	<b>▲946</b>	▲798 (-)	▲0.5%	▲3.8%	▲3.3%
クオラス※	11,403	<b>17,680</b>	6,277 (55.0%)	568	<b>922</b>	354 (62.4%)	5.0%	5.2%	0.2%
その他及び セグメント内修正 等	3,571	<b>3,594</b>	-	1,493	<b>1,283</b>	-	-	-	-

※ クオラスの広告出稿の実取扱高を含めた売上高は前期23,793百万円、当期30,088百万円です。

フジテレビ



# フジテレビ 決算のポイント

## ポイント

増収営業損失 放送・メディアは、配信広告で引き続き増収ながら、放送収入の減で減収  
 コンテンツ・ビジネスは、イベント、MD、アニメ開発等が好調で増収、これにより放送収入の減収をカバーし、トータルで増収  
 番組制作費は、GP帯を中心に放送収入以外にもマネタイズできるコンテンツや、単発へ戦略的に投下

## 放送・メディア

### 放送収入：減収

#### ■タイム

レギュラーは減収  
 単発は「FNS27時間テレビ」や「FIVBパリ五輪予選  
 ワールドカップバレー2023」等で増収  
 ローカルはスポットとの機動的な枠の融通等で減収

#### ■スポット

地区投下および在庫減少もあり減収  
 9月以降は一部業種・商材で復調の兆し

### その他放送・メディア収入：大幅増収

#### ■配信広告

前期比+25.7%、ナショナルクライアントの出稿もあり  
 ドラマが引き続き牽引、7月期月9「真夏のシンデレラ」  
 映画公開前に配信の「ミステリと言う勿れ」等が好調  
 バラエティも上昇基調、「人志松本の酒のつまみになる話」  
 「トークウィーンズ」等の既存レギュラーに加え  
 「まつもtoなかい」等の新レギュラーも好調

## コンテンツ・ビジネス

### 映画：増収

#### ■劇場公開



「東京リベンジャーズ2  
 血のハロウィン編・運命」  
 「東京リベンジャーズ2  
 血のハロウィン編・決戦」  
 興収 計50億超  
 「ミステリと言う勿れ」大ヒット

#### ■2次利用

前年度ヒット作等の配信等貢献

### ビデオ：増収

前期ヒットドラマのDVDセールスが好調

### イベント：大幅増収

#### ■「アレグリア-新たなる光-」

東京・大阪公演ともに大盛況  
 総来場者84.7万人達成



### MD：増収

#### ■物販

「アレグリア」や  
 「お台場冒険王」等イベント関連の物販や  
 配分金収入が好調

### アニメ開発：増収

#### ■「ちいかわ」

配分金収入が好調

#### ■「サイコパス」

劇場版を公開



©サイコパス製作委員会

### デジタル：増収

#### ■FOD

有料会員100万人を超え成長継続  
 アプリダウンロード数が3,000万突破

# フジテレビ決算概要

(単位：百万円)

	2022年度 2Q累計	2023年度 2Q累計	対前期増減	
売上高	111,702	<b>117,051</b>	5,349	4.8%
営業利益	1,962	<b>▲173</b>	<b>▲2,136</b>	—
経常利益	2,047	<b>▲81</b>	<b>▲2,129</b>	—
四半期純利益	1,336	<b>▲221</b>	<b>▲1,558</b>	—



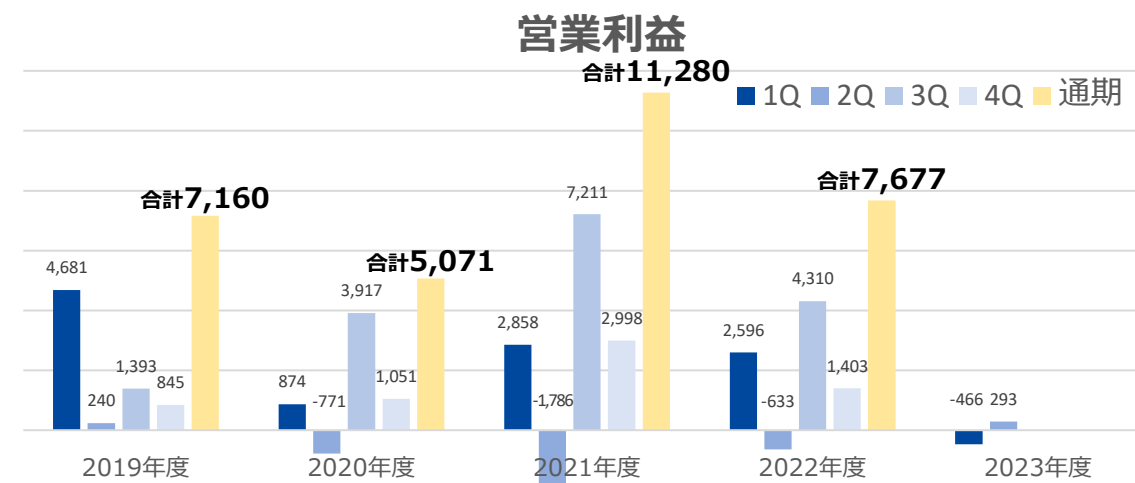
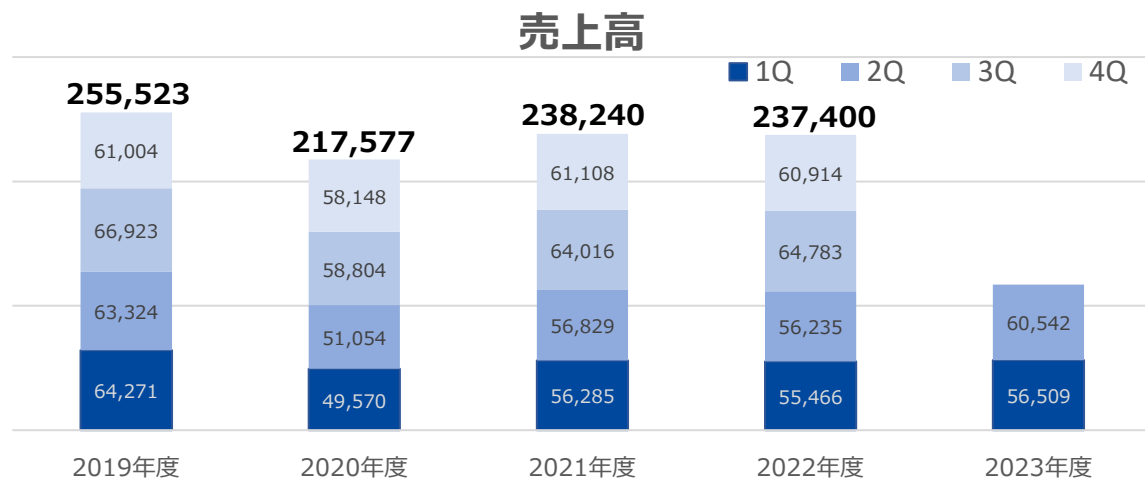
# 事業別の収入及び粗利益

(単位：百万円)

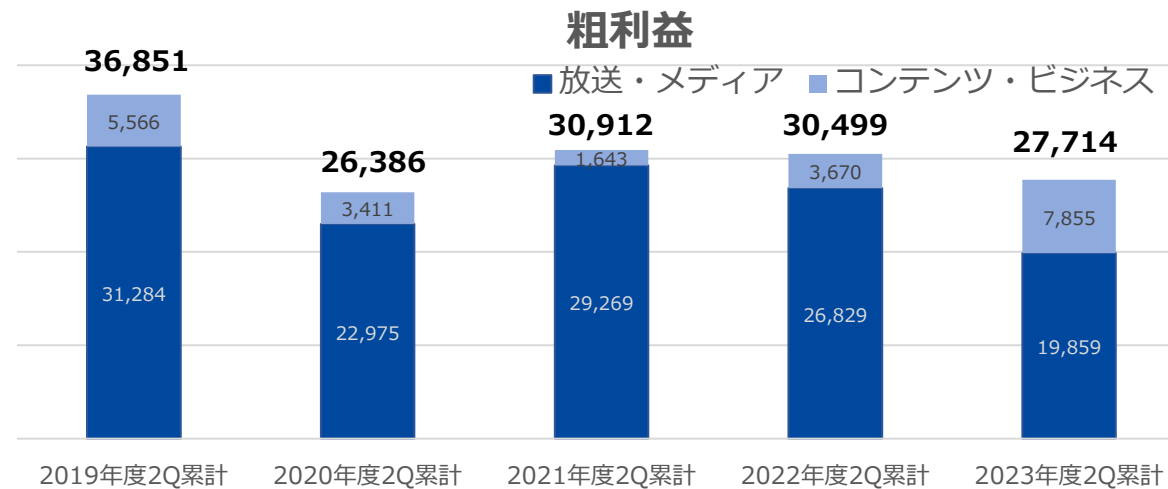
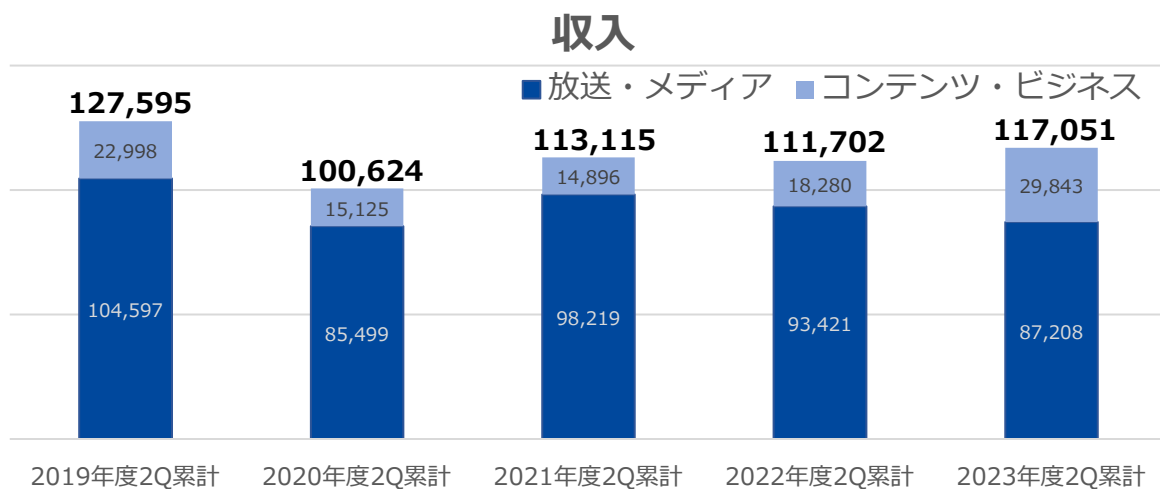
	事業別			計
		放送・メディア	コンテンツ・ビジネス	
収入	2023年度2Q累計	87,208	29,843	117,051
	2022年度2Q累計	93,421	18,280	111,702
	増減	▲6,212	11,562	5,349
	増減(%)	▲6.7%	63.2%	4.8%
粗利益	2023年度2Q累計	19,859	7,855	27,714
	2022年度2Q累計	26,829	3,670	30,499
	増減	▲6,970	4,184	▲2,785
	増減(%)	▲26.0%	114.0%	▲9.1%
粗利益率	2023年度2Q累計	22.8%	26.3%	23.7%
	2022年度2Q累計	28.7%	20.1%	27.3%

# 業績推移

## ■ 四半期業績推移 (単位：百万円)



## ■ 事業別業績の推移 (単位：百万円)



# 放送・メディア 収入と原価

(単位：百万円)

	2022年度 2Q累計	2023年度 2Q累計	対前期増減	
放送・メディア収入	93,421	87,208	▲6,212	▲6.7%
放送収入	77,113	70,741	▲6,372	▲8.3%
ネットタイム	32,764	31,737	▲1,026	▲3.1%
ローカルタイム	5,215	4,806	▲409	▲7.9%
スポット	39,133	34,197	▲4,935	▲12.6%
その他の放送・メディア収入	16,308	16,467	159	1.0%
配信広告	1,947	2,446	499	25.7%
番組販売	7,549	7,484	▲64	▲0.9%
CS放送・その他	6,811	6,535	▲276	▲4.1%
放送・メディア原価	66,592	67,349	757	1.1%
放送・メディア粗利益	26,829	19,859	▲6,970	▲26.0%

# スポット収入 業種別動向

コロナが落ち着き、「交通・レジャー・観光」や「外食・各種サービス」が復調。10月の酒税改正を控えビール関連の出稿増により「アルコール飲料」も好調

(2023年4月～2023年9月) ※管理ベース

業種	前年シェア	当期シェア	対前期増減
情報・通信・放送	15.4%	13.1%	▲26.0%
化粧品・トイレタリー	11.0%	12.2%	▲3.4%
外食・各種サービス	8.9%	10.3%	1.0%
非アルコール飲料	7.8%	8.3%	▲7.4%
食品	8.1%	7.7%	▲17.3%
交通・レジャー・観光	4.1%	6.4%	35.2%
金融・保険	5.6%	5.9%	▲8.3%
アルコール飲料	4.1%	5.1%	7.8%
医薬品・医療用品	4.8%	4.5%	▲19.0%

業種	前年シェア	当期シェア	対前期増減
出版・エンタテインメント	4.7%	4.3%	▲21.0%
事務・精密・光学機器	4.9%	3.8%	▲31.5%
自動車・関連品	3.6%	3.7%	▲11.4%
流通・小売業	3.5%	3.6%	▲10.8%
不動産・住宅設備	2.8%	3.3%	1.5%
衣料・身回品・雑貨	4.2%	2.4%	▲49.8%
家電・AV機器	1.8%	1.7%	▲14.0%
電話サービス	1.4%	1.1%	▲31.7%
エネルギー・機械	0.7%	0.3%	▲69.5%
その他	2.7%	2.3%	▲26.9%

# 番組制作費

GP帯を中心に、放送収入に加え、配信広告収入やデジタル事業等にも活用できるコンテンツへ投下  
下期以降もコンテンツを強化しつつ、放送収入の推移も見て適切に運用

(単位：百万円)

	2022年度	2023年度	対前期増減	
第1四半期	15,742	<b>17,000</b>	1,257	7.9%
第2四半期	17,753	<b>17,320</b>	▲432	▲2.4%
上期	33,496	<b>34,321</b>	824	2.5%
第3四半期	20,544			
第4四半期	18,076			
下期	38,621			
通期	72,117			

※自社制作番組及び購入番組の直接費

# コンテンツ・ビジネス 収入と原価

(単位：百万円)

	2022年度 2Q累計	2023年度 2Q累計	対前期増減	
<b>コンテンツ・ビジネス収入</b>	<b>18,280</b>	<b>29,843</b>	<b>11,562</b>	<b>63.2%</b>
催物事業収入	2,775	9,150	6,374	229.6%
映画事業収入	4,788	5,056	267	5.6%
デジタル事業収入	6,030	6,756	725	12.0%
MD事業収入	1,540	3,531	1,990	129.2%
アニメ開発事業収入	679	1,819	1,140	167.8%
ビデオ事業収入	505	1,107	601	119.1%
その他の収入	1,960	2,422	461	23.6%
<b>コンテンツ・ビジネス原価</b>	<b>14,610</b>	<b>21,987</b>	<b>7,377</b>	<b>50.5%</b>
<b>コンテンツ・ビジネス粗利益</b>	<b>3,670</b>	<b>7,855</b>	<b>4,184</b>	<b>114.0%</b>



# 販管費及び営業外損益概要

(単位：百万円)

	2022年度2Q 累計	2023年度2Q 累計	対前期増減	
販売費及び 一般管理費	28,536	27,887	▲649	▲2.3%
販売費	20,215	19,807	▲408	▲2.0%
一般管理費	8,321	8,080	▲240	▲2.9%
<b>営業費用合計</b>	<b>109,739</b>	<b>117,224</b>	<b>7,485</b>	<b>6.8%</b>
<b>営業利益</b>	<b>1,962</b>	<b>▲173</b>	<b>▲2,136</b>	<b>—</b>
営業外収益	264	304	39	14.8%
営業外費用	180	212	32	18.1%
<b>経常利益</b>	<b>2,047</b>	<b>▲81</b>	<b>▲2,129</b>	<b>—</b>

# 配信関連（配信広告とデジタル事業）

（単位：百万円）

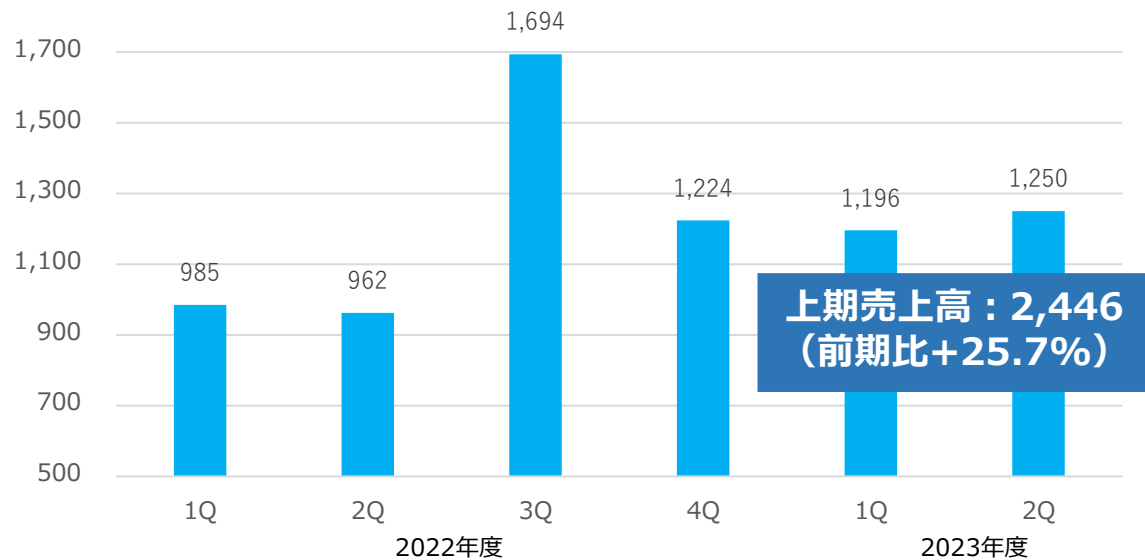
3種類の  
配信関連  
ビジネス

- ①配信広告：「TVer」を通じたAVOD
- ②デジタル事業：「FOD」のSVOD・「FNNプライムオンライン」の広告とコンテンツ販売
- ③その他：「映画事業」や「アニメ開発事業」による配信PF向け販売

実績

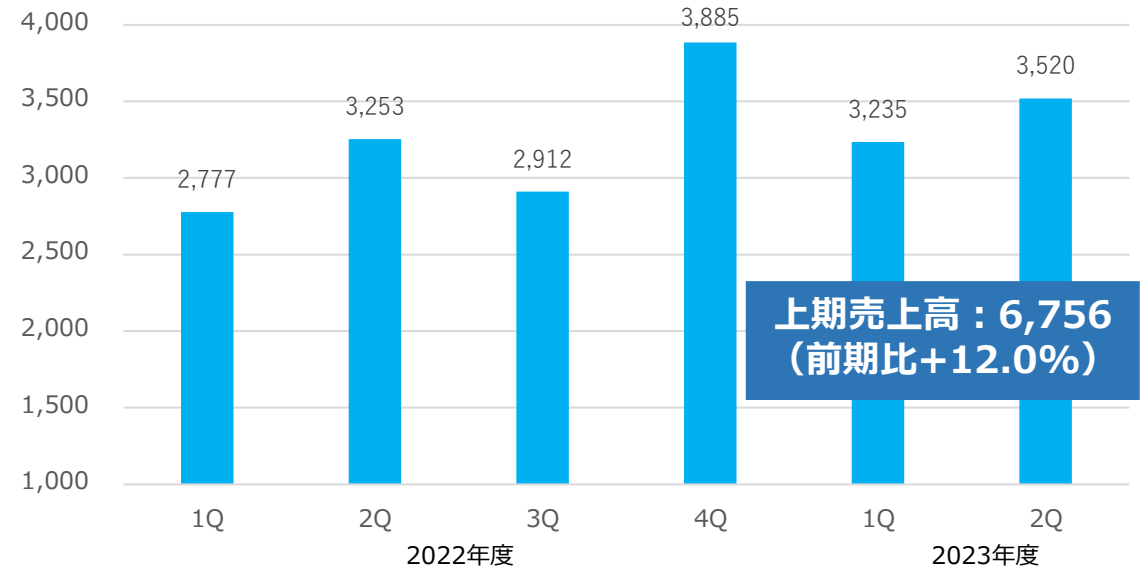
- ①と②：合計で早期に年間売上高200億円を目指す中、この上期も成長し合計91億円を達成
- ③：前年等のヒット作品をはじめ、多数のライブラリー作品の販売が貢献

## 配信広告売上高



各クールのドラマによって多少の変動はあるが  
おおむね成長を継続  
上期は前期比+25.7%の成長

## デジタル事業売上高



FODの有料会員が22年11月に100万人を突破  
その後の順調な伸びが、デジタル事業の成長をけん引  
FNNプライムオンラインの直近平均PV数は約1.2億（22年8月～23年8月）

# 都市開発・ 観光事業





# 都市開発（サンケイビル）の決算のポイント

## ポイント

減収増益。前年の大型物件売却の反動により減収となったものの、賃貸事業でのレジデンス「ルフォンプログレ 渋谷ヒルトップ」等の新規竣工物件やオフィス「本町サンケイビル」の本格稼働、ホテル「アロフト東京銀座」「グリッズプレミアムホテル小樽」の高稼働等、販売・売却事業での「SANKEILOGI厚木」や「S-GATE FIT 八丁堀」の販売収益の計上あり、増益

## 賃貸事業：増収増益

### 住宅



ルフォンプログレ  
渋谷ヒルトップ

昨年度竣工のルフォンプログレが高稼働  
「ルフォンプログレ元浅草マークス」  
(74戸：2022年5月竣工)  
「ルフォンプログレ上野稲荷町」  
(84戸：2022年9月竣工)  
「ルフォンプログレ渋谷ヒルトップ」  
(「S-LINKS渋谷」内：128戸：2022年11月竣工)

### ■オフィス

大阪の「本町サンケイビル」の稼働率上昇  
賃料水準も好調に推移

### ■ホテル

「アロフト東京銀座」「グリッズプレミアム  
ホテル小樽」がインバウンドの観光客の回復等  
もあり高稼働



本町サンケイビル

## 開発

- 物流施設「SANKEILOGI 府中」2024年9月竣工予定  
敷地面積約16,877㎡・延床面積約39,617㎡・RC+S造地上4階建

## 販売・売却事業：減収増益

前年の大型物件「ルフォン ザ・タワー大塚」の反動により減収だが  
住宅・オフィス・物流施設等多様な物件の売却で増益

### 住宅等



ルフォンプログレ  
浅草田原町・浅草テラス

「ルフォンプログレ浅草田原町」(76戸)  
「ルフォンプログレ浅草テラス」(69戸)  
「SANKEILOGI厚木」2022年8月竣工  
敷地面積6,841.60㎡ 延床面積14,054.62㎡

### オフィス等



S-GATE FIT 八丁堀

「S-GATE FIT 八丁堀」  
敷地面積 336.88 ㎡・延床面積 2,171.44 ㎡  
「足立入谷物流施設」2023年5月竣工  
敷地面積1,997.19 ㎡・延床面積5,538.67 ㎡

## 資金調達

サステナビリティ・リンク・ローン (SLL) の  
包括型 SLL フレームワークで551億円調達  
(詳細は「サステナビリティの取り組み」(P.47) をご参照ください)

# 観光事業（グランビスタ ホテル&リゾート）・その他のポイント

## ポイント

増収増益 2015年4月に連結後、上期の営業利益としては過去最高  
ホテル事業はインバウンド需要で本格的に回復、海洋レジャーも好調継続

### グランビスタ ホテル&リゾート：増収増益

### その他：増収減益

## ホテル



札幌グランドホテル

### 本格的回復

- インバウンドの更なる回復で稼働率、客室単価ともに上昇
- 札幌は国際線の就航回復途上ながら、売上は前年比大幅回復
- 「インターゲートホテルズ」は、東京・京都・大阪等の大都市で観光需要を取り込み、前年比大幅増収
- 原価は世界情勢や為替等の影響で、食品等が上昇基調だが期初計画の範囲内に抑制

### ■サンケイビルマネジメント

主力の保守清掃事業で新規物件の受注が増加  
工事業でサンケイビル保有物件の内装工事等の受注が拡大

### ■サンケイビルウェルケア

入居者が順調に増加

## その他 (海洋レジャー等)



鴨川シーワールド

### 引き続き好調

- コロナ禍も好調だった「鴨川シーワールド」が引き続き好調  
須磨海浜水族園は、来年6月のリニューアルに向け再開発中



# 都市開発・観光事業 決算概要

(単位：百万円)

	売上高			営業利益		
	2022年度 2Q累計	2023年度 2Q累計	前期比	2022年度 2Q累計	2023年度 2Q累計	前期比
サンケイビル	27,588	<b>27,478</b>	▲109 (▲0.4%)	4,665	<b>6,496</b>	1,830 (39.2%)
グランビスタ ホテル&リゾート	12,015	<b>15,978</b>	3,962 (33.0%)	615	<b>2,528</b>	1,913 (311.0%)
その他及び セグメント内 修正等	7,771	<b>9,603</b>	—	1,056	<b>724</b>	—

営業利益率		
2022年度 2Q累計	2023年度 2Q累計	増減
16.9%	<b>23.6%</b>	6.7%
5.1%	<b>15.8%</b>	10.7%
—	—	—

■参考：サンケイビルグループ連結事業別内訳（FMHとは連結対象が異なります）

(単位：百万円)

	売上高			営業利益		
	2022年度 2Q累計	2023年度 2Q累計	前期比	2022年度 2Q累計	2023年度 2Q累計	前期比
賃貸事業	10,193	<b>11,911</b>	1,718	2,079	<b>2,870</b>	790
販売・売却事業	18,108	<b>15,578</b>	▲2,530	4,225	<b>4,333</b>	107
ホテルリゾート 事業	12,305	<b>17,051</b>	4,746	594	<b>2,494</b>	1,900

営業利益率		
2022年度 2Q累計	2023年度 2Q累計	増減
20.4%	<b>24.0%</b>	3.6%
23.3%	<b>27.8%</b>	4.5%
4.8%	<b>14.6%</b>	9.8%



1

2024年3月期  
第2四半期決算概要

2

2024年3月期  
通期業績予想とトピックス

3

株主への利益還元

4

サステナビリティ  
の取り組み

5

参考資料



FUJII MEDIA HOLDINGS, INC.

# 2024年3月期通期 連結業績予想（修正なし）

（単位：百万円）

	2023年3月期 通期	2024年3月期 通期予想	対前期増減	
売上高	535,641	557,700	22,059	4.1%
営業利益	31,401	32,000	599	1.9%
経常利益	39,053	39,300	247	0.6%
親会社株主に帰属する 当期純利益	46,855	26,000	▲20,855	▲44.5%

## 【フジテレビ】地上波テレビ広告収入の通期見込み（修正なし・前期比）

	今回予想	前回予想(8/3)
ネットタイム	▲0.4%	▲0.4%
ローカルタイム	+0.7%	+0.7%
スポット	▲11.8%	▲11.8%
放送収入合計	▲6.1%	▲6.1%

# 2024年3月期通期 セグメント別業績予想 (修正なし)

(単位：百万円)

	事業セグメント			合計	調整額	連結損益 計算書 計上額	
	メディア・ コンテンツ 事業	都市開発・ 観光事業	そ の 他 業				
売上高	2024年3月期通期 予想	<b>441,800</b>	<b>113,300</b>	<b>19,100</b>	<b>578,100</b>	<b>▲16,500</b>	<b>557,700</b>
	2023年3月期通期 実績	420,836	108,841	20,394	550,072	▲14,430	535,641
	増減率	4.9%	4.1%	▲6.3%	5.1%	—	4.1%
営業利益	2024年3月期通期 予想	<b>20,500</b>	<b>12,900</b>	<b>700</b>	<b>34,100</b>	<b>▲2,100</b>	<b>32,000</b>
	2023年3月期通期 実績	17,484	15,070	931	33,487	▲2,086	31,401
	増減率	17.3%	▲14.4%	▲24.8%	1.8%	—	1.9%

# 設備投資計画と減価償却費（修正あり）

「都市開発・観光事業」で、設備投資額を期初計画比+376億円の833億円に増額  
 REITとの資産の入れ替えも含めて投資を実施し、トータルで都市開発・観光セグメントのバリューアップを目指す  
 （単位：百万円）

		2024年3月期		2025年3月期
		2Q累計 (実績)	通期 (計画)	通期 (計画)
設備投資額	連 結	30,241	97,700	62,500
	フジテレビ	2,270	10,000	6,000
	都市開発・観光事業	26,756	83,300	51,700
	フジ・メディアHD	501	2,500	3,000
減価償却費	連 結	8,888	19,300	20,400
	フジテレビ	2,901	6,600	6,900
	都市開発・観光事業	3,401	7,400	8,300
	フジ・メディアHD	935	2,000	2,300



# フジテレビ 下期のトピックス

■ 10月改編は平日の昼帯とGP帯を強化。配信広告収入は、一層の成長を目指す。

**タイム** 23年10月 秋の改編  
**テーブル** 「やっぱり、楽しくなければフジテレビじゃない」



- **レギュラー**：平日のGP帯と昼帯を中心に強化  
金曜21時にドラマ枠を増設  
TVerやFODでの視聴も期待  
平日GP帯は、次の時間帯への流れを意識した番組編成へ
- **単発**：年末は「FNS歌謡祭」「THE MANZAI」をはじめ人気番組をラインナップ

**放送収入**  
**配信広告収入**

放送収入はスポットの復調に期待  
配信広告は引き続き成長へ

- **放送収入**：  
スポットは9月頃から復調の動き  
酒税改正に伴うアルコール、化粧品・トイレタリー、不動産・住宅設備等で出稿増を期待
- **配信広告収入**：  
IT関連に加え、ナショナルクライアント等にもスポンサーが拡大  
新設したドラマ枠等も活用し、一層の成長を目指す

■ 映画は下期も劇場公開に期待。デジタルは引き続き好調な推移を目指す。アニメは更なるIPの発掘へ。

**映画** 下期も強カラインナップ



©2023 映画「翔んで埼玉」製作委員会

- **劇場公開**：  
「ミステリと言う勿れ」が好調  
「翔んで埼玉～琵琶湖より愛をこめて～」(2023年11月23日公開)
- **配信権販売**：前年度のヒット映画やライブラリー作品の配信販売を進め更なる収益拡大を目指す

**デジタル**  
(FOD)

地上波と連携し  
会員数の増加へ

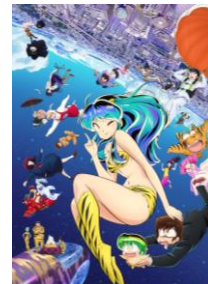


(C) 四葉タト・小川亮/講談社・フジテレビジョン

- **FOD**：  
ドラマを中心に地上波と連動  
FODでなければ見られない  
フジコンテンツを中心とした  
ラインナップで地上波への視聴誘引と共に会員数を拡大へ

**アニメ**

「ちいかわ」等の  
IPの育成と発掘へ



©高橋留美子・小学館/  
アニメ「うる星やつら」製作委員会

- **ちいかわ**：  
引き続き人気継続  
コラボやイベント等でのMDの好調な推移を期待
- **IP発掘**：  
「ノイタミナ」「+Ultra」などの有効活用

# メディア・コンテンツ事業 下期のトピックス

ポニー  
キャニオン

大ヒットアニメの第3弾や  
アニメのイベントなどで好調を維持

## ■方向性

配信、番組販売、イベントなどのノンパッケージ分野の強化  
アニメ等への投資も積極的に継続し、更なる成長を目指す

## ■アニメ

### □「東京リベンジャーズ天竺編」スタート

大人気アニメ「東京リベンジャーズ」。  
第1期の「8・3抗争編」「血のハロウィン編」、  
第2期の「聖夜決戦編」に続き、待望の第3期の「天竺編」開始

### □「進撃の巨人」イベント

『進撃の巨人』のテレビアニメ放送10周年と完結を記念し  
11月5日から11月8日まで「TVアニメ放送完結記念  
『進撃の巨人』ワールドワイド・アフターパーティー」を開催

作品を応援してくださったファンの皆様をオンライン  
特設クルーズ船にご招待し、制作陣やキャストとともに完結を祝う  
アニメ史上初の「ファン参加型打ち上げ」を実施

## ■映画

「ジョン・ウィック：コンセクエンス」(2023年9月22日公開)

キアヌ・リーブス主演最新作

「ロスト・フライト」(2023年11月23日公開予定)

「エクスペンダブルズ ニュー・ブラッド」

(2024年1月公開予定)

## ■投資

アニメ向け投資を継続して実施、映画配給権の確保も検討



ジョン・ウィック：コンセクエンス  
®, TM & © 2023 Lions Gate Entertainment Inc.  
All Rights Reserved.

DINOS  
CORPORATION

売上増に向けた商品構成の見直しと  
販路毎の費用配分の調整を実施

## ■方向性

消費者動向の変化を踏まえ、商品構成と販路の見直しを実施  
商品開発による売上増と販促費を中心に費用配分を見直し、利益確保へ

## ■商品構成の見直し

### □インテリア・生活雑貨

調理器具や家電を中心にSNSと連動したプロモーション

### □寝具

ヒット商品「ヒートループ」をリニューアル  
著名人とのコラボ商品の開発(例：リラティエ枕)

### □食品

おせちなどの「ハレの日」商材の充実



## ■販路の見直し

### □テレビ通販

番組別に組織を再編し、内容を強化  
商品ラインナップに新ジャンルを投入  
通販番組「ディノスTHEストア」の展開強化

### □カタログ通販

差別化された商品開発  
カタログボリュームの効率化  
(商品構成・発行規模/部数等の見直し)  
Webコンテンツの更なる充実





# 都市開発 (サンケイビル) 下期のトピックス

## 賃貸事業

住宅等



### 西大井一丁目計画

2024年1月竣工予定・137戸  
JR 横須賀線「西大井」駅徒歩2分  
ランドリー等の共用施設が充実  
ドラッグストアも誘致予定



### 墨田区曳舟計画

2024年1月竣工予定・90戸  
「押上」駅や「曳舟」駅等3線3駅  
利用可能で交通利便性が高いエリア  
周辺の景色を臨むテラスあり

オフィス・その他



### S-GATE FIT日本橋馬喰町

2023年4月竣工・地上11階建  
JR 総武本線「馬喰町」駅徒歩1分  
敷地面積609.50 m<sup>2</sup>・延床面積4,818.75 m<sup>2</sup>



### S-GATE FIT天神南

2023年7月竣工・地上14階建  
福岡市地下鉄七隈線「天神南」駅徒歩1分  
再開発が進む「天神ビッグバン」最南部  
敷地面積893 m<sup>2</sup>・延床面積4,787.66 m<sup>2</sup>  
シリーズ初の九州進出

## 販売・売却事業

分譲



### ルフォン松戸北小金

2023年10月販売開始・60戸  
12月下旬より引き渡し開始予定  
JR常磐線「北小金」駅徒歩3分  
東京メトロ千代田線で  
大手町へ直通の交通至便なエリア

投資家向け商品

### 新なんばプロジェクトⅠ

2023年10月竣工予定・136戸  
賃貸マンション：シングル・DINKS向け

### 新なんばプロジェクトⅡ

2024年1月竣工予定・118戸  
賃貸マンション：シングル向け

### 学芸大学

2024年2月竣工予定・31戸  
賃貸マンション：シングル・DINKS向け

### 浅草橋三丁目プロジェクト

2024年4月竣工予定・49戸  
賃貸マンション・店舗1区画  
DINKSファミリー向け49戸・シングル向け23戸

# 観光（グランビスタ）等下期のトピックス

## グランビスタ ホテル&リゾート

### ホテル事業

システム改修で  
さらに顧客サービス向上へ

#### ■ グランビスタメンバーシップ 「グランビレッジ」

2023年11月1日より  
新システムへ  
顧客サービスが  
高まる内容に



グランビスタ ホテル&リゾート  
公式アプリ リリース記念  
アプリ初回ログインで  
最大1,500ポイントプレゼント!  
キャンペーン期間：2023年11月1日～2024年1月31日

#### ■ 札幌グランドホテル 札幌パークホテル

新千歳空港を発着する国際線の増加に  
より更なる回復へ

#### ■ インターゲートホテルズ

2023年3月でブランド誕生5周年  
2018年3月に京都で開業後、  
東京、広島、金沢、大阪へ展開  
更なる成長を期待

### 海洋レジャー事業

神戸須磨シーワールド  
24年6月開業へ開発進行中

#### ■ 施設概要

- 水族館：神戸須磨シーワールド
- 宿泊：神戸須磨シーワールドホテル  
(他駐車場など)

#### ■ 開発区域

約101,900㎡

#### ■ 開業予定

- 水族館・宿泊施設：2024年6月



神戸須磨シーワールドイメージ（HPより）

### その他

#### ■ サンケイビルマネジメント

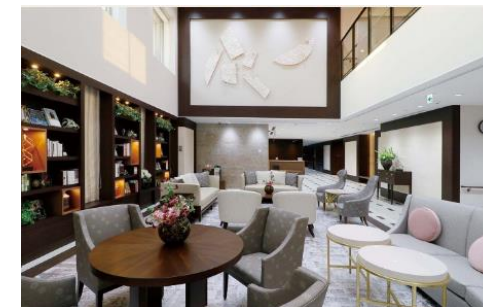
主力の保守清掃事業での  
新規物件の受注獲得へ

サンケイビルと連携し  
保有物件内での入退去等に対応

#### ■ サンケイビルウェルケア

入居時の費用を抑えた

「入居一時金0円プラン」などで  
利用者の更なるすそ野の拡大へ



ウェルケアヒルズ馬事公苑（HPより）



1

2024年3月期  
第2四半期決算概要

2

2024年3月期  
通期業績予想とトピックス

3

株主への利益還元

4

サステナビリティ  
への取り組み

5

参考資料



# 株主への利益還元

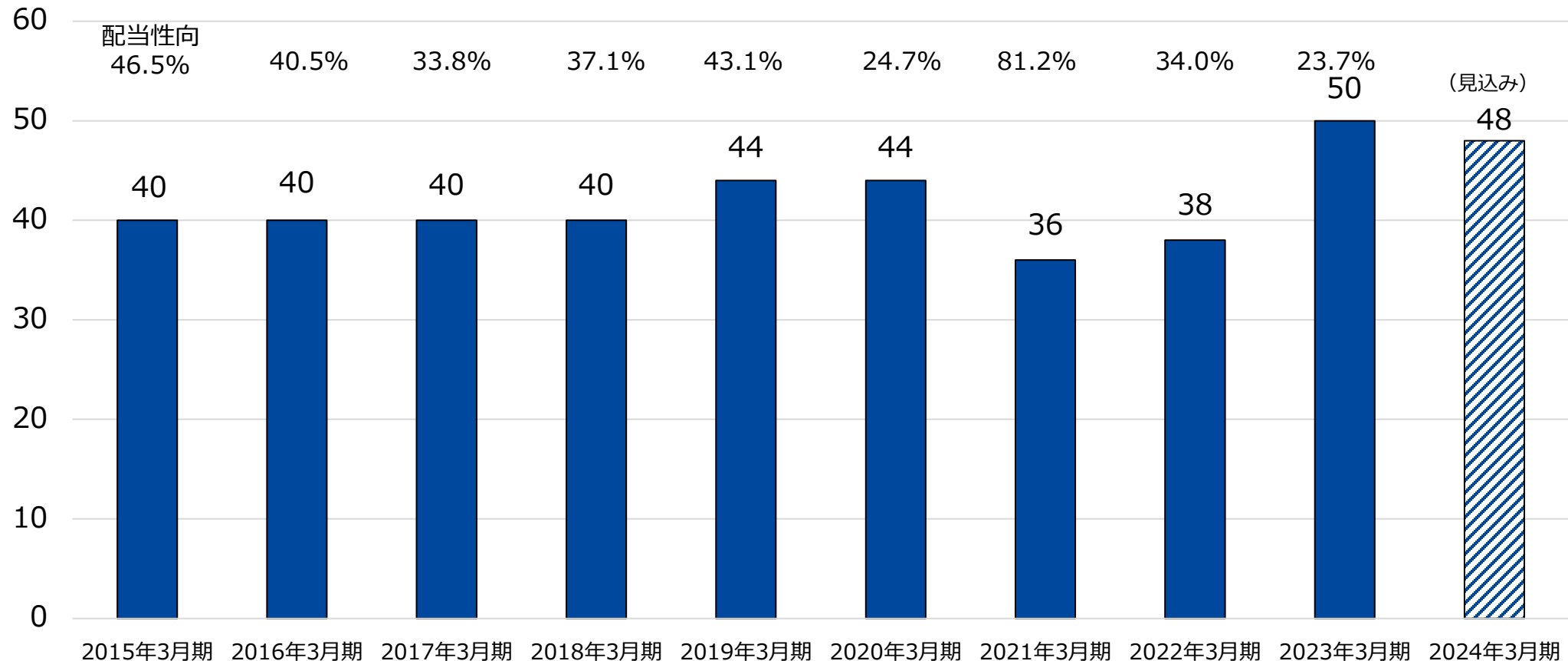
## 還元方針

### ■ 2024年3月期 年間配当48円 (見込み)

連結ベースの配当性向40%を基本に、配当の安定性等を考慮して決定

### ■ 自己株式取得を2024年3月までに100億円を上限に実施中

2023年10月末現在：取得株式数：4,037,900株・株式の取得価額総額：59.1億円



※2019年3月期の年間配当には、普通配当40円以外に認定放送持株会社移行10周年及び(株)フジテレビジョン開局60周年記念配当4円が含まれております。  
2023年3月期の年間配当には、普通配当40円以外に認定放送持株会社移行15周年及び(株)フジテレビジョン開局65周年記念配当10円が含まれております。

1

2024年3月期  
第2四半期決算概要

2

2024年3月期  
通期業績予想とトピックス

3

株主への利益還元

4

**サステナビリティの  
取り組み**

5

参考資料



# サステナビリティの取り組み

【フジ・メディア・ホールディングス】  
経営諮問委員会の  
開催

## ■経営諮問委員会概要

経営課題に対する提言機会の拡充並びに、経営陣幹部・取締役候補の指名、報酬等に係る取締役会の機能の独立性・客観性と説明責任を強化し、当社のコーポレート・ガバナンス体制の一層の充実を図るため、取締役会の下に設置5名の取締役で構成され、うち3名は独立社外取締役。上記の設置目的に沿って議論を実施

【サンケイビル】  
サステナビリティ  
リンクローン  
で551億円調達

## ■サステナビリティ・リンク・ローン（SLL）の包括型 SLL フレームワークで551億円調達 2022年10月の246億円に続き、総額797億円を調達

SLL は、借り手の経営戦略に基づくサステナビリティ目標と連携したサステナビリティ・パフォーマンス・ターゲット（SPT）を設定し、貸付条件と SPT の達成状況を連動させ借り手に目標達成に向けた動機付けを促し、環境・社会の面から持続可能な事業活動および成長を支援する仕組み

本件の SPT は、サンケイビルが掲げる脱炭素目標「CARBON HALF」（2030 年度までの Scope1・2 の CO2 総排出量50%削減(2013 年度比))の実現に向けた中間目標の達成状況が対象



# サステナビリティの取り組み

【ポニーキャニオン】  
クリエイターとの  
フェアな取引ルール  
を公表

## ■ 「クリエイターとのフェアな取引ルール」を公表

クリエイターとの取引において相互がフェアなパートナーであることを大前提としている姿勢を改めて明文化。「取引の際には、予め明確かつ正当な業務内容、工程、納期、対価設定を協議、合意する」など、具体的なルールを策定

## ■ これまでの取り組み

2022年6月にSDGs宣言を実施。

サプライチェーンの取引先を広く対象にした「パートナーシップ構築宣言」に登録作品の制作に携わる者がお互いへのリスペクトを共通認識として持つことを目的とした「リスペクト・トレーニング」を導入。企業としてクリエイターと共存共栄する姿勢を広く公表するとともに、その姿勢を社員ひとりひとりへ徹底

これまでの取り組みを改めてクリエイターにフォーカスし、クリエイターをはじめとしたステークホルダーにより具体的に伝えるべく「ルール」を策定し、公表

## ■ 「プラチナくるみん」とは

次世代育成支援対策推進法に基づき、従業員の子育てをサポートする企業として「くるみん」認定を取得した企業のうち、さらに高い水準の取組みを継続的に行い一定の要件を満たした企業のみが取得できる特例認定

## ■ これまでの取り組み

2021年に「くるみん」取得。その後、週休3日制度の導入等の柔軟な働き方、有休取得推進、所定外労働の削減、アンコンシャスバイアス研修などの取組みが総合的に評価され、今回の認定へ

【DINOS  
CORPORATION】  
厚生労働省による認定  
「プラチナくるみん」  
を取得



1

2024年3月期  
第2四半期決算概要

2

2024年3月期  
通期業績予想とトピックス

3

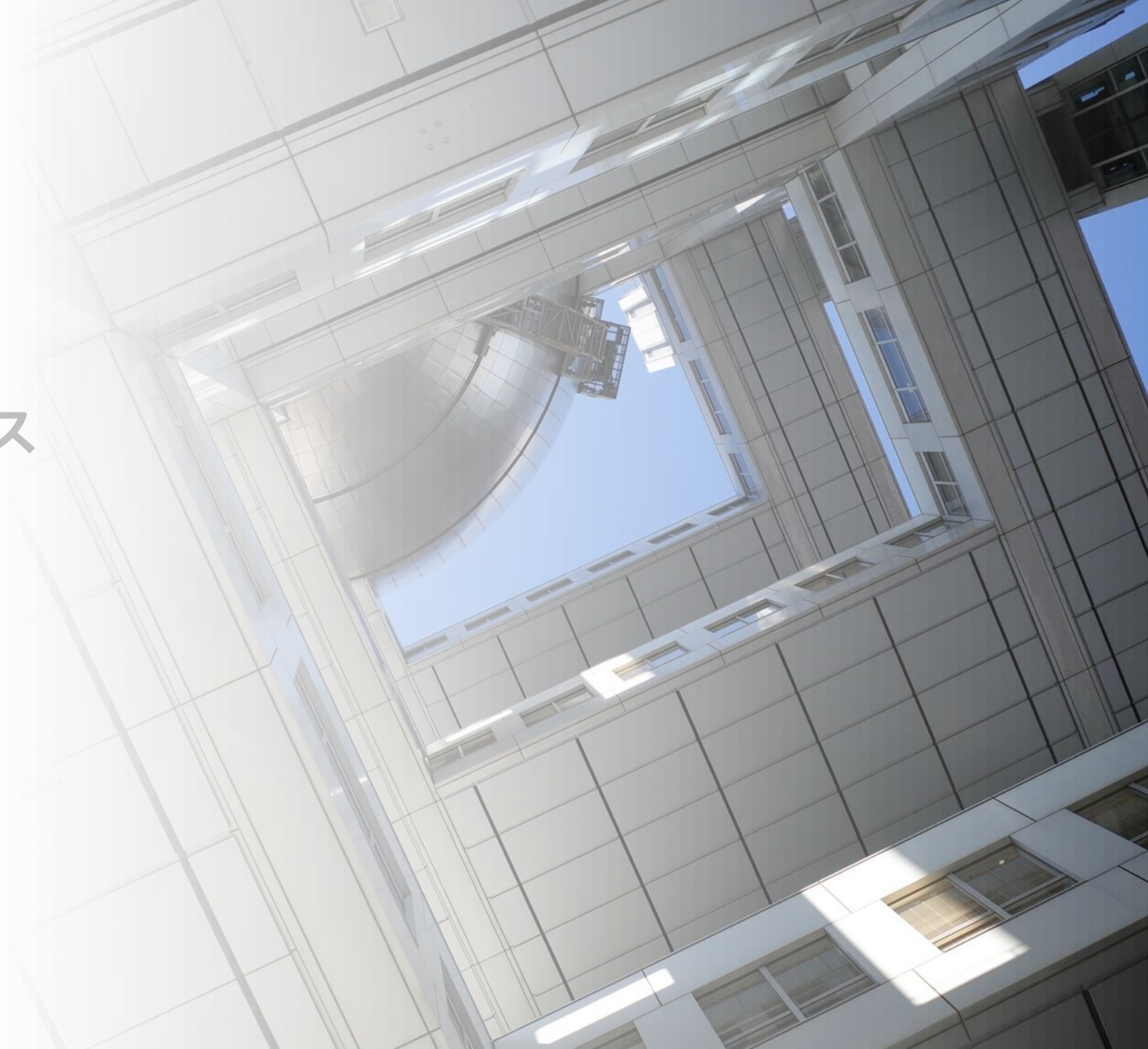
株主への利益還元

4

サステナビリティの  
取り組み

5

参考資料





# 2024年3月期 第2四半期

(2023年7月～9月)

## 実績



# 第2四半期 (2023年7月～9月) 連結決算概要

(単位：百万円)

	2022年度 2Q	2023年度 2Q	対前期増減	
売上高	122,478	<b>135,266</b>	12,787	10.4%
営業利益	4,304	<b>7,421</b>	3,116	72.4%
経常利益	5,555	<b>7,331</b>	1,776	32.0%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	3,949	<b>4,884</b>	934	23.7%

# セグメント別の売上高及び営業利益

(単位：百万円)

	事業セグメント				計	調整額	連結損益 計算上 金額
	メ コ 事	デ ン テ ン 業	ア ン ツ 業	都 市 開 発 業			
売上高	2023年度 2Q	109,894	24,122	5,015	139,032	▲3,766	135,266
	2022年度2Q	101,144	20,030	4,752	125,927	▲3,448	122,478
	増減	8,749	4,091	263	13,104	▲317	12,787
	増減 (%)	8.7%	20.4%	5.5%	10.4%	—	10.4%
営業利益	2023年度 2Q	2,969	4,673	242	7,884	▲462	7,421
	2022年度2Q	1,739	2,839	196	4,775	▲470	4,304
	増減	1,229	1,833	45	3,108	7	3,116
	増減 (%)	70.7%	64.6%	23.3%	65.1%	—	72.4%

営業利益 率	2023年度 2Q	2.7%	19.4%	4.8%	5.7%	—	5.5%
	2022年度2Q	1.7%	14.2%	4.1%	3.8%	—	3.5%

# 第2四半期 (2023年7月~9月) フジテレビ決算概要

(単位：百万円)

	2022年度 2Q	2023年度 2Q	対前期増減	
売上高	56,235	<b>60,542</b>	4,306	7.7%
営業利益	▲633	<b>293</b>	927	—
経常利益	▲539	<b>321</b>	860	—
四半期純利益	▲413	<b>159</b>	573	—



# 放送・メディア 収入と原価

(単位：百万円)

	2022年度 2Q	2023年度 2Q	対前期増減	
<b>放送・メディア収入</b>	<b>45,267</b>	<b>42,964</b>	<b>▲2,302</b>	<b>▲5.1%</b>
放送収入	37,086	34,598	▲2,488	▲6.7%
ネットタイム	16,721	16,325	▲395	▲2.4%
ローカルタイム	2,533	2,451	▲81	▲3.2%
スポット	17,831	15,820	▲2,011	▲11.3%
<b>その他の放送・メディア収入</b>	<b>8,180</b>	<b>8,366</b>	<b>185</b>	<b>2.3%</b>
配信広告	962	1,250	288	30.0%
番組販売	3,796	3,739	▲56	▲1.5%
CS放送・その他	3,422	3,376	▲46	▲1.3%
<b>放送・メディア原価</b>	<b>34,311</b>	<b>33,875</b>	<b>▲435</b>	<b>▲1.3%</b>
<b>放送・メディア粗利益</b>	<b>10,955</b>	<b>9,089</b>	<b>▲1,866</b>	<b>▲17.0%</b>

# コンテンツ・ビジネス 収入と原価

(単位：百万円)

	2022年度 2Q	2023年度 2Q	対前期増減	
<b>コンテンツ・ビジネス収入</b>	<b>10,968</b>	<b>17,577</b>	<b>6,609</b>	<b>60.3%</b>
催物事業収入	2,102	5,442	3,339	158.8%
映画事業収入	3,110	3,686	576	18.5%
デジタル事業収入	3,253	3,520	266	8.2%
MD事業収入	824	1,871	1,046	126.9%
アニメ開発事業収入	347	791	444	128.2%
ビデオ事業収入	271	953	682	251.3%
その他の収入	1,058	1,311	252	23.8%
<b>コンテンツ・ビジネス原価</b>	<b>8,586</b>	<b>12,630</b>	<b>4,044</b>	<b>47.1%</b>
<b>コンテンツ・ビジネス粗利益</b>	<b>2,382</b>	<b>4,947</b>	<b>2,565</b>	<b>107.7%</b>

# スポット収入 業種別動向

洗濯関連商材での「化粧品・トイレタリー」や  
人材サービス等の「外食・各種サービス」が復調  
非アルコール・アルコールなどの飲料系も好調

(2023年7月～2023年9月) ※管理ベース

業種	前年 シェア	当期 シェア	対前期増減
情報・通信・放送	16.0%	14.7%	▲19.1%
化粧品・トイレタリー	9.5%	12.0%	▲11.0%
外食・各種サービス	9.4%	11.9%	▲10.5%
食品	7.0%	7.5%	▲5.5%
非アルコール飲料	5.8%	7.0%	▲6.7%
金融・保険	6.3%	5.7%	▲20.3%
交通・レジャー・観光	4.1%	5.6%	▲20.7%
医薬品・医療用品	5.0%	4.5%	▲20.3%
出版・エンタテインメント	5.6%	4.3%	▲32.6%

業種	前年 シェア	当期 シェア	対前期増減
アルコール飲料	2.6%	4.3%	▲42.8%
不動産・住宅設備	3.5%	4.1%	▲1.1%
事務・精密・光学機器	5.5%	4.1%	▲35.6%
流通・小売業	4.8%	3.8%	▲30.7%
自動車・関連品	5.1%	3.5%	▲40.8%
衣料・身回品・雑貨	2.9%	1.7%	▲48.3%
電話サービス	1.4%	1.5%	▲6.9%
家電・AV機器	1.6%	1.2%	▲33.9%
エネルギー・機械	0.7%	0.5%	▲32.6%
その他	3.0%	2.0%	▲42.2%

本資料には当社及び当社の関係会社・出資先企業の見通し、目標、予想数値等、将来に関する記述が含まれている場合があります。実際の業績は今後の事業運営、経済情勢、金融市場その他の状況変化等さまざまな要因により大きく異なる可能性があります。

【フジ・メディア・ホールディングスHP】  
10月17日にリニューアルしました  
<https://www.fujimediahd.co.jp/>